

W;REPORT 2

—レポート—
男女共同参画社会をめざす 2004.10.25 NO. 2



特集

スポーツと女性の100年

—広く、強く、もっと楽しく—

H. Kitajima



(協力:都立小松川高等学校)

体育の授業も男女共学

宗村 典子 (北区神谷在住)

都立高等学校体育科講師



体育の授業もすいぶん変わってきました。今、わたしの学校では体育の授業は1、2年は男女別学で球技、トレーニング、水泳、柔剣道、ダンスなどを行い、3年では男女共習でソフトボール、バレーボール、バドミントン、テニス、バスケットボールなどの球技を行っています。以前は男子は柔剣道、女子はダンスと固定化していましたが、指導要領の改訂により、学校によっては柔剣道をやる女子も、ダンスを選択する男子も増えています。いっしょに授業を行う場合も、チーム編成や練習方法など、みんなで話し合いバランスのよいチーム編成をし、どのような練習や協力をすれば楽しくゲームができて、かつじょうずになれるかを自分たちで考え、授業を進めます。また、女子教員が男子の体育の授業を受け持つこともあります。わたしと同僚の女性教員はテニス、ハンドボール、水泳、タッチラグビー、その他を男子にも教えています。

高校時代というこの時期に、生徒の活動欲を満足させることは、心と体の両面でとても大切なことです。スポーツを通じて生徒は体力、集中力を養い、さらに協力と社会性、思いやりの心も育てます。しかし、残念なことには体育の授業が、学力、受験重視のもとに減らされています。実際授業をやっていて、協力できない子、不器用な子、体力のない子が増えています。これらは体育の授業、それも高校の授業だけの問題ではなく、小中学校から、いや、それ以前からの問題ではありますが、学校教育の中でも、もっと体育の授業の重要性を認識してもらいたいと思います。

■「遊戯」としてのスポーツ

女性がスポーツに親しむようになったのは19世紀後半のこと。上流階級の女性が、乗馬やアーチェリー、テニス、スキーなどを社交として、また遊びとして行ったのが最初です。

日本では、高等女学校での遊戯やテニス、なぎなたが始まりで、立派な母になるためには健康・体力づくりが重要だと運動は奨励されました。しかし、あくまでも体操・遊戯が中心であり、女子に競技は適さないとされていました。

■女子陸上競技がショッキングだった時代

女子陸上競技は、1928年のアムステルダム五輪で試験導入されました。陸上競技が女性の体と子どもを産む能力に影響を及ぼすといわれていた時代。女性が苦しうに走る姿はショッキングであり、「女性には負担が多すぎる」といった報道もあり、以降女子陸上中・長距離種目が除外されることとなりました。800メートルが競技種目に再び加えられたのは、それから32年後のローマ大会から。女子マラソンにいたっては、さらに24年後のロサンゼルス大会からでした。

■クーベルタン男爵とオリンピック

古代五輪では、女性は競技参加も見物も一切許されていませんでした。古代五輪終焉から1500年を経て再開された近代五輪復活の父といわれるクーベルタン男爵は、「真の五輪の勇者は男性、女性の主たる役割は勝者に冠を授けることであるべき」と生涯にわたって主張し続けました。

- 1896 第1回オリンピック (明治29) アテネ大会
- 1900 第2回オリンピック パリ大会 女性が初参加
テニス、ゴルフ、クロッキー、乗馬、ヨットの種目に参加
- 「高等女学校令施行規則」制定。体操科の内容が普通体操遊戯になる
- 1903 高等女学校で「遊戯」としてクロッキー、テニス、羽子板が採用される
- 1906 女子学生が富士登山をするようになる
- 1908 須磨海水浴場が男女の区分をしてオープン
- 1910 女子高等師範学校長会議で推奨すべき女性のスポーツとしてなぎなた、水泳、弓、スケート、テニス、羽根つきがあげられる
- 1912 第5回オリンピック スtockホルム大会 女 (明治45) 子水泳が種目となる
- 1922 女性の五輪をパリで開催。5カ国65人が (大正11) 参加
- 1924 第1回日本女子オリンピック大会開催。種目として野球があったものの以後中止
- 1926 日本女子スポーツ連盟発足、講道館で女子部 (昭和元) 授業開始
- 1928 第9回オリンピック アムステルダム大会 国際女子競技大会に人見絹代を派遣
- 1935 講道館女子柔道初めての寒稽古
- 1936 第11回オリンピック ベルリン大会で前畑秀子が200mで金メダル
- 1935 講道館女子柔道初めての寒稽古
- 1936 第11回オリンピック ベルリン大会で前畑秀子が200mで金メダル
- 第4回冬季オリンピック ガルミッシュ・バルテンキルヘン大会フィギュアスケートで、最年少・冬季初12歳稲田悦子が出場
- 1950 女子プロとして日本女子野球連盟発足(社会人に移行、その後消滅)
- 1954 ウィンブルドン大会に加茂幸子初の女性選手として出場
- 1959 田中聡子、2000m背泳世界新
- 1960 第17回オリンピックローマ大会で田中聡子が100m背泳ぎで銅メダル
- 1961 日紡貝塚女子バレーチームヨーロッパ遠征で24戦無敗。「東洋の魔女」と呼ばれる
- 1964 第18回オリンピック東京大会 日本女子バレーボールチームが金メダル獲得
- 1967 今井通子、若山美子がマンタールホルン北壁に初登頂
- 1970 第1回全国家庭婦人バレーボール大会開催、48チームが参加
- 1971 今井通子、女性として世界初の「欧州アルプス三大北壁」の三冠王になる
- 1972 第20回オリンピックミュンヘン大会で、女性選手が選手宣誓
- 青木まゆみが1000mバタフライ世界新
- 1973 世界初の女子マラソン大会開催 (西ドイツ)

これが日本の女性スポーツことはじめ

ローマ大会から44年

今こそスポーツを継続できる環境づくりを

竹宇治 聡子 (旧姓田中・北区上十条在住)



オリンピックローマ大会銅メダリスト、JWS理事、(社)日本マスターズ水泳協会理事

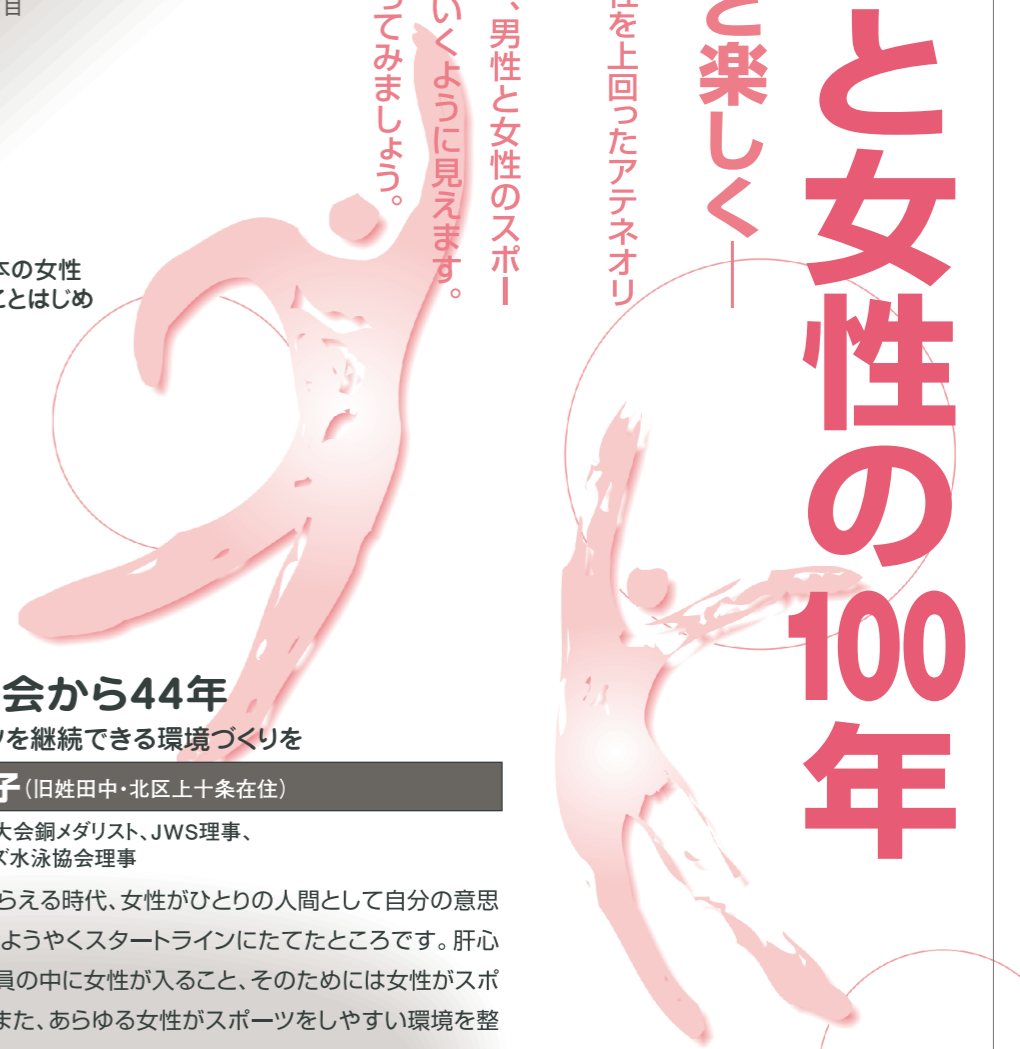
女性がスポーツをしていることを認められる時代、女性がひとりの人間として自分の意思で生きていける時代になりました。しかし今、ようやくスタートラインにたてたところ。肝心なのはコーチや指導者、意思決定のできる役員の中に女性が入ること、そのためには女性がスポーツを続けていける環境づくりが必要です。また、あらゆる女性がスポーツをしやすい環境を整えなくてはなりません。そのために戦争を終わらせなければならない国さえあります。

スポーツは相手を知り、相手を認め、自分を知ることが必要です。子どもの頃から体を動かす喜びを知って欲しいし、その環境を整えるのは大人の役目でしょう。現在ある体育館、校庭などを有効活用すればできることだと思います。

スポーツは特別な人の特別なものではありません。自分の生活のいりどりとして、自分のからだをどうしたいか考えれば、おのずから生活の中にいつもあるものになるのではないのでしょうか。

「広く、強く、もっと楽しく」
女性の出場者数とメダル獲得数が男性を上回ったアテネオリンピックが幕を閉じました。
女子レスリングも新たに種目に加わり、男性と女性のスポーツにおける垣根はますます低くなっていくように見えます。
現在にいたるまでの100年を振り返ってみましょう。

スポーツと女性の100年



1967年、男性のみのボストンマラソンにキャシー・スイツァーが性別を偽って出場。ゴール直前に女性であると告白。

山郷 のぞみ YAMAGO NOZOMI

成立学園高校職員、成立学園高校サッカー部GKコーチ、なでしこJAPANゴールキーパー、さいたまレイナス所属。

北区からもアテネオリンピック出場へ

『結果が出せなくて、チームがなくなったことも…その困難を乗り越えて今があります。これからも日本代表に選ばれるようにプレイします』

午前中は事務職員として仕事を、午後はサッカー部コーチ、それが終わるとさいたまレイナスの練習へ。アルバイトをしながらという代表選手が多い中、サッカーに専念できる環境があるのは、日本女子代表監督だった宮内聡氏(現成立学園高校サッカー部総監督)との出会いがあったから。小学校時代、春は陸上、ポートボール、夏は水泳、冬は駅伝に参加。当時から学校代表としてゲームに出ることにこだわっていました。高校入学時に「バレーボールでは代表になれない、だったら…」と思い切ってサッカーに転向。レシーブの経験がゴールキーパーに役立ちました。その後、日本女子代表に選ばれ、ワールドカップ出場。今の女子サッカーへの評価が女子選手の強化につながってほしいし、出産後のリハビリトレーナーがいるほど選手層が厚いアメリカようになるためにも、これからもずっとサッカーを続けたい、1人でも多くの人にプレイを見て欲しいと思っています。また、来年プロ化の動きのあるアメリカでプレイしたいという思いもあります。



長塚 真央 NAGATUKA MAO

ブルースカイズ ピッチャー 王子第2小学校6年

少年野球で活躍

『気がついたらブルースカイズに入っていました。少年野球は男とか女とか関係ありません』

3歳年上の兄の練習に付き添ううちに、気づいたらブルースカイズに入っていました。ピッチャーになったのは小学校4年生から。ピアノ、英語、水泳、スポーツクラブと幼稚園からいろいろやっていましたが、今は野球だけです。練習は土日の朝8時半から夕方6時まで。6年生は4人。そのうち3人は女の子です。少年野球は男だとか、女だとか分け隔てはありません。マウンドからおりたら審判から「あれ、女の子?」と聞かれたこともあります。今年のチームは弱いと言われていたのに、神谷大会で準優勝したのはうれしかったです。これからは、いろいろなスポーツをやりたいので、中学校ではテニス部に入るつもりです。

スポーツセクシャルハラスメント

女性の躍進の陰に表面化してきたのが「スポーツセクハラ」です。女子選手や女子運動部員に対する男性指導者による「指導者」という立場を利用してのセクシャルハラスメントがあとをたちません。日本陸上競技連盟が2002年9月「倫理に関するガイドライン」をまとめたが、まだまだ周知徹底されていません。今後、「一人ひとりの選手、運動部員と指導者が互いの人格を尊重しあう対等な関係づくり」がスポーツに関わる人の取り組み課題となっています。

参考文献 『スポーツ・ジェンダー学への招待』/明石書店 『目でみる女性スポーツ白書』/大修館書店 『オリンピック物語』結城和香子著/中央公論新社

2004 第28回オリンピック アテネ大会 女性の参加が競技数、人数ともに上回る

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得

2004 高橋尚子が女子マラソン初の金メダル獲得



▲国立科学スポーツセンター(北区西が丘) スポーツの国際競技力の向上を目的に2001年に開設されました。スポーツ医・科学、情報の中枢機関として、アテネ大会でその役割の重要性が広く知られました。



▲東京都障害者スポーツセンター(北区十条台) 障害者スポーツは医療としてのリハビリテーションの役割だけでなく、たのしみ、快適な生活、健康、そして競技へと進化しています。この施設でも大勢の人々がスポーツを楽しんでいます。



手塚 麻美 TEDUKA MAMI

中部大学助教授、赤羽中学校出身

新しいスポーツで活躍している

スポーツとしてのフライングディスク

フライングディスクは一般的には「frisbee」の名前で親しまれているプラスチック製の円盤のことです。このフライングディスクは、年齢、性別を問わず誰にでもすぐに始められるレベルから、世界大会が行われるほど競技性の高い種目もあり、さまざまな楽しみ方ができることが魅力です。

アメリカに留学中の27歳の時にフライングディスクに出会い、その後わずか3年でアメリカで開催されたUSオープン、ディスタンス(投げた距離を競う個人種目の一つ)部門で前人未達の日本人女性初100mの壁を破りました(記録105.04m)。

1992年からは「全日本女子アルティメットナショナルチーム」世界大会に監督として出場し豪強チームを相手に連戦しています(1992年優勝、1998年準優勝、2000年準優勝、2004年4位)。



スポーツをするようになったもの… 女性のスポーツ実施率は増加したものの「家事・育児の軽減」をスポーツの参加への条件に挙げている人が30代の6割にものぼります。

競技スポーツの陰で 競技スポーツの選手で、筋力を補うための無理な減量による貧血、生理不順それによる骨粗しょう症が多いといわれています。減量をしなければならない競技では過食症、拒食症に陥るリスクも大きく、指導者やトレーナーに女性が少ないことによる相談者不在も指摘されています。現状の把握と対策が急がれます。

新着図書のご紹介



『男性誌探訪』〔361〕
 斎藤美奈子著／朝日新聞社／2003
 これまで、女性誌のような批評の波に洗われずにすんできた男性誌を、「世の中を読む」「センスを磨く」といったカテゴリーに分けて分析。現在の文化の下での男性性について考える手がかりを与えてくれる一冊です。



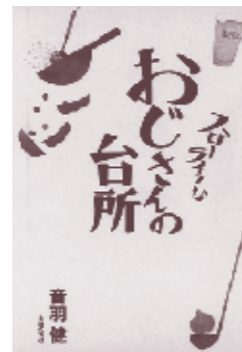
**『ジェンダーを科学する
 ～男女共同参画社会を
 実現するために』**〔367.1〕
 松本伊瑛子・金井篤子編／ナカニシヤ出版／2004
 18世紀から現在に至るフェミニズムの歴史と、医学・芸術・法学など多様な学問分野が、ジェンダーといかにかかわっているかを解説しています。



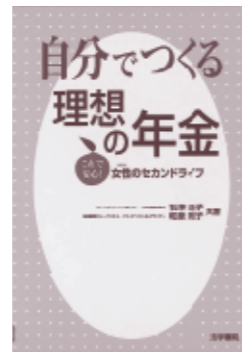
**『男性の育児休業
 ～社員のニーズ、
 会社のメリット』**〔366〕
 佐藤博樹・武石恵美子著／中央公論新社／2004
 男性の育児休業が企業に与えるメリットを解説し、海外にみる男性の子育て支援策なども紹介しながら、取得促進への具体案を提示しています。



**『女性たちの平成不況
 ～デフレで働き方・暮らしは
 どう変わったか』**〔367.2〕
 樋口美雄・太田清編／日本経済新聞社／2004
 この10年間、結婚・出産・育児や仕事をめぐって女性たちはどのように生きたのか。デフレが変えた女性の選択について、パネル調査をもとに読み解いていきます。



**『スローライフな
 おじさんの台所
 ～ひとりを快適に生きる』**〔590〕
 音羽健著／主婦の友社／2004
 離婚をきっかけに家事に挑戦することになった“団塊のおじさん”が、いかに一人で暮らすかという哲学から、買い物・料理といった実践編までユーモアをまじえて語っています。



**『自分でつくる理想の年金
 ～これで安心!女性の
 セカンドライフ』**〔364〕
 石津史子・和泉昭子著／法学書院／2004
 年金自分史の作り方、年金基礎知識、老後資金の捻出方法などを紹介。心豊かに自分らしく生きていくための理想の年金作りとは?



「スペースゆう」の情報コーナーでは、男女共同参画に関する図書・雑誌・行政資料、ビデオ等を収集し、閲覧と貸出しを行っています。主催講座の参考資料の紹介や、テーマ別による特集コーナーを設置し、暮らしに役立つ身近な情報も提供しています。また、「調べたいことがある」、「こんな本を探している」といったご相談にも応じます。どうぞお気軽にご利用ください。

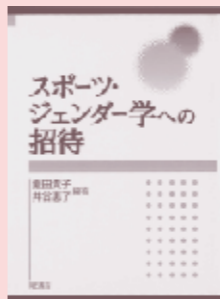
☆貸出冊数は、おひとり2冊まで。貸出期間は、2週間です。



もっと知りたい!スポーツと女性

女性とスポーツに関する歴史や現状など、さらに深く知りたい、考えたいという方へ。

『スポーツ・ジェンダー学への招待』〔780〕
 飯田貴子・井谷恵子編著／明石書店／2004



「ジェンダー・シンボルとしてのスポーツの登場」、「ジェンダーを増幅するスポーツ」など、歴史・文化・身体・教育といったテーマごとにスポーツにおけるジェンダー問題を詳述し、今後の課題や動きを論じています。「シニア女性のスポーツ熱」「スポーツウェア」といったコラムも興味深い一冊です。

『目でみる 女性スポーツ白書』〔780〕
 井谷恵子・他編著／大修館書店／2001



スポーツにおけるさまざまなデータを通して、競技スポーツ、スポーツ産業、からだ、メディア、子どものスポーツ環境などの領域における女性とスポーツの現実が浮かび上がってきます。資料編では、女性とスポーツ関連団体や海外での体育・スポーツに関する男女共同参画ガイドラインなども紹介されています。

2004年度 北区さんかく大学スタート!

日 程	テーマ/講師
10/7 (木)	オリエンテーション/足立恵理(ファシリテーター)
10/14 (木)	概論:法律はなんのため?/浅倉むつ子(早稲田大学大学院教授)
10/21 (木)	女性の人権と法律/大谷恭子(弁護士)
10/28 (木)	グローバル化と世界のルール/北沢洋子(国際評論家)
11/4 (木)	女性の課題—グローバル編/後藤弘子(国際子どもの権利センター副代表/千葉大学大学院教授)
11/11 (木)	家族と法/白井典子(弁護士)
11/18 (木)	女性のからだど法/齋藤有紀子(北里大学講師)
11/25 (木)	暴力と女性/谷田川知恵(恵泉女学園大学講師)
11/27 (土)	特別公開講座裁判員制度とは～司法参画に備えて知っておきたい事講義とシミュレーション/前田裕司(弁護士)・浅倉むつ子(早稲田大学大学院教授)
12/2 (木)	子どもと法/荒牧重人(山梨学院大学教授)
12/9 (木)	コースのふりかえりと修了式/ファシリテーター・スペースゆう

各回木曜午後6時30分～9時
 11/27(土)のみ午後1時30分～4時30分

10月7日より、北区さんかく大学が始まりました。今年度のテーマは、「法とわたしたち」。講師の著書や関連資料をそろえた特集コーナーを設置しています。

『フェミニズム法学～生活と法の新しい関係』〔320〕
 浅倉むつ子・戒能民江他著／明石書店／2004

『事例で学ぶ 司法におけるジェンダー・バイアス』〔327〕
 第二東京弁護士会司法改革推進二弁本部ジェンダー部会
 司法におけるジェンダー問題諮問会議編／明石書店／2003

『利潤か人間か』〔309〕北沢洋子著／コモンズ／2003

『母体保護法とわたしたち』〔498〕
 齋藤有紀子著／明石書店／2002

『共生の法律学【新版】』〔327〕
 大谷恭子著／有斐閣／2002

『裁判員制度』〔327〕
 丸田隆著／平凡社／2004

『性差別と暴力—統一性の法律学』〔320〕
 角田由紀子著／有斐閣／2001

『女性差別撤廃条約とNGO』〔367.2〕
 日本女性差別撤廃条約NGOネットワーク編／明石書店／2003



■『現場発 スローな働き方と出会う』〔366〕
 田中夏子・杉村和美著／岩波書店／2004

■『少子化のジェンダー分析』〔334〕
 目黒依子・西岡八郎編／勁草書房／2004

■『暴力を見つめる』〔368〕
 東京都社会福祉協議会／2003

■『自分でテキル養育費
 強制執行マニュアル』〔369〕
 新川てるえ著／ひつじ書房／2004

■『母子家庭の子どもたち』〔369〕※
 しんぐるまざあず・ふぉーらむ／2004

■『わたしの便利帳 5』〔367.2〕※
 わたしの便利帳5編集室編／ジョジョ／2004

■『現代日本女性史』〔367.2〕
 鹿野政直著／有斐閣／2004

■『離婚と子育て』〔367.3〕
 村本邦子・窪田容子著／三学出版／2004

■『すべての女性に「プレステア」』〔495〕
 乳房健康研究会編著／日本医療企画／2004

■『産んでよかった!「高齢出産」』〔495〕
 大葉ナナコ著／祥伝社／2004

■『女医ママが教える妊娠・
 出産ハンドブック』〔495〕
 木戸道子監修／大泉書店／2004

■『女性のうつ病』〔493〕
 野田順子著／主婦の友社／2003

※印の図書は、館内での閲覧のみとなります。

新着ビデオ

『ドメスティック・バイオレンス2
 —より良い援助のために』
 東京ウィメンズプラザ

『地域こそって子育てを!
 —葉丸裕英が聞く樋口先生の
 育児支援ガイド』
 内閣府男女共同参画局

『cheer up!チアアップ!
 あなたを応援します
 —いつでもどこでも誰でもチャレンジ』
 内閣府男女共同参画局

『カフェ放送「てれれ2003セレクト」』
 カフェ放送てれれ



ひとりで抱え込まず ご相談ください。

—こころと生き方・DV相談—

配偶者からの暴力は暴行・傷害罪などの犯罪となる行為です。また、改正DV防止法では精神的暴力もDVであると明記されました。「こころと生き方・DV相談」では次のような相談を受けています。たとえば現在、暴力や暴言、執拗ないじめに苦しんでいる。つらいけれどDVかどうかわからない。精神、身体が不調である。子どもの目の前で暴力・暴言がある。子どもの言動で困っているが背景に夫婦の問題があることを感じている。保護命令や一時保護の情報がほしい。すでにDVで別居しているが今後の生活が不安である。離婚調停中だが納得がいけない。離婚は成立したが気持ちの整理がつかないなどです。

一人で抱え込まず、ご相談ください。北区では、福祉事務所、保健センター、医師会、警察などと連携をはかり、相談内容に応じた援助ができるようDV防止連絡協議会を設けています。いっしょに解決の一步を踏み出しましょう。

相談日	毎週火曜	午前9時半～午後5時半	第1.3.5金曜	午前9時半～午後3時半
	第1.2.4水曜	午後3時～午後8時	第2.4土曜	午前9時半～午後3時半
	第3水曜	午前9時半～午後8時	第1日曜	午前9時半～午後5時

—からだの相談—

女性のからだの総合相談に女性医師が応じています。

病気がしらと思ったら、またセカンドオピニオンとしても気軽にご利用ください。

相談日	第3水曜日	午後6時～8時
-----	-------	---------

予約 → **電話 03-3913-0161**

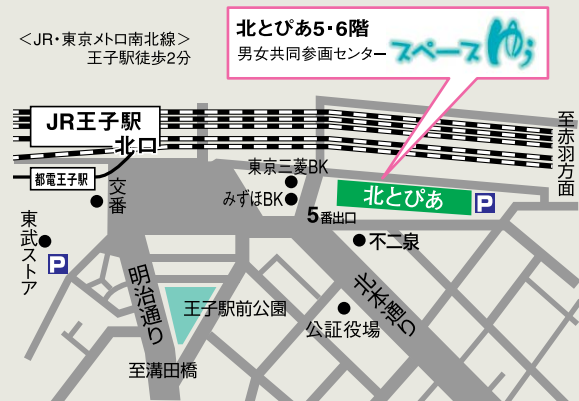
G A L L E R Y



作／北島 裕子
元北区教育委員会委員／(財)北区文化振興財団理事／(社)示現会会員
(社)日本美術家連盟会員／北区美術会委員

作品名「レッスン」。場所、地下スタジオの大鏡の前。
先生の動きを真似て踊る様子を描いた作品。
作者は、かつてスペイン映画「バルセロナ物語」で、海岸で神に祈るように踊るフラメンコの激しさに魅了された。それ以来、その躍動

美を描きたいとスタジオでのスケッチ、舞台の鑑賞を続け、昨年は、本場の踊り見たさにスペインを旅した。本作品は「ゆうレポート2号」のために描かれた。



編集後記

スポーツの秋です。そして今年にはオリンピックで女性が活躍しました。そこで特集を「スポーツと女性の100年」としましたが、組んでみてその奥の深さに圧倒されました。先人達の苦勞の歴史、活躍の裏の悲喜劇、限られた紙面に到底載りきれない情報、北区で活躍している多くのスポーツウーマン等々。100年の年表にまとめてみました。これはほんの一部ですが、関心をもたれた方は、どうか紹介した本に当たってみてください。新しい世界が見えてくると思います。やっぱり、読書の秋、にしよのかな。